

家書^{かしよ}を得^えたり

高^{こう}

啓^{けい}

未^{いま}だ書^{しよ}中^{ちゆう}の語^ごを讀^よまずして

憂^{ゆう}懷^{かい}已^{すで}に寛^{くわん}けるを覺^{おぼ}ゆ

灯^{とう}前^{ぜん}封^{ふう}篋^{きやう}を看^みれば

題^{だい}字^じに平^{へい}安^{あん}と有^あり

【作者】高啓（一三三六～一三七四年）・名は啓（けい）、字は李迪（りてき）、江蘇省長州（蘇州市）の人、元末期の惠宗至元（けい

そうしげん）2年の生まれ、幼にして穎敏（えいびん）、文武に優（すぐ）れ、詩文に巧みで史学に深かった。呉淞の青丘に住み、青丘子（せいきゆうし）と号す。元朝に抵抗して蘇州に政權を樹立した張士誠の文学集団に出入りした。官は戸部（こぶ）侍郎（じやう）に就（つ）くも辞（し）やめて自活、のち罪に連座して処刑される。時に39歳、明（みん）初期 最大の詩人で呉中の四傑「楊基（ようき）、張羽（ちやうう）、徐賁（じよひ）」に数えられる。

【通釈】まだ手紙を読まぬうちに、家族のことを心配してふさぎこんでいた思いが、くつろいでくるのを感じた。
あかりの前で状箱を見ると、上書きに平安の二字があつたからだ。